杉山さんちの おいしいお米

毎日食べるご飯だからこそ
安心安全はもちろん、
まっ白いおいしいご飯を・・・・

こんなところで作ってます!!

大地の恵みと 人の手の温もり・・・・

筑波山の裾野に広がる広々とした平野と、
市内には数本の一級河川は流れる筑西市は、
豊かな大地と美しい水に恵まれた関東屈指の米処。
おいしいお米ができる条件を備えた山善農園だから、
格別の食味をもつお米が生まれます。

山善農園

どうしておいしいお米ができるのか？

農産物全般にいえることですが、
たくさんの量を収穫しようとすると、どうしても食味（味）が低下する傾向にあります。
つまり、お米のおいしさと収穫量には反比例の要素があります。
そこで、我が家では“量より質”味にこだわった2つの栽培方法を徹底して行っています。

それは、収穫量が減ってしまうために、普通の米作り農家にはできない栽培方法を実践しているからです。

環境にやさしい農業を実践しています

杉山さんちは、エコファーマーです。

環境にやさしい農業をはじめました

●エコファーマーとは…

「持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律」に基づき、たい肥などによる土作りと化学肥料、化学農薬の使用の低減を一体的に行う農業生産方式を計画、導入し、都道府県知事の認定を受けた農業者のことです。

［認定番号］県西第1427号
［認定期間］平成18年8月8日～平成23年8月7日
［持続性の高い農業生産方式の内容］
- たい肥等有機質資材施用技術
- 有機質肥料施用技術
- 特認技術

過去の実績が保証する高い品質

第34回全国豆類経営改善共励会 農林水産大臣賞　受賞

杉山さん（茨城）ら大臣賞

全国豆類共励会表彰式

第34回全国豆類経営改善共励会の表彰式が20日、東京都内で開かれた。JA全中、日本豆類基金協会、JA新聞連の主催で、出品数は217点。農林水産大臣賞は大豆農家の部で杉山善司さん（茨城、大豆畑団の部）で平田パイロット（岐阜）と妙口原生産組合（愛媛）、小豆・いんげん・落花生等の部で山本博一さん（兵庫）がそれぞれ受賞した。

受賞者を代表して杉山さんが「大豆不耕起栽培などの新技術を導入し、良質な大豆を生産していきたい」とあいさつした。

■2006年6月21日
農業新聞掲載

東京大研究室と田植え交流

散歩道

◆東京大研究室と田植え交流　☆筑西

東京大の谷口信和教授と大学院生、学生らが農政学研究室の14人が21日、筑西市野殿の山善農園（杉山善司社長）の水田10ヒで田植えを体験＝写真、筑西市提供。市や県筑西地域農業改良普及センターなどの関係者と研究交流会を開いた。

大学院生らは水田に入って苗を一株ずつ植え、続いて農園のハウスでイチゴ狩りを楽しんだ。

交流会は田植えや水田の管理、稲刈りなどを通して農業生産現場への理解を深めるのが狙い。今後、生育状況の随時調査したり、収穫期に稲刈りなどをする予定。谷口教授は「現場の農業を体験することで自分たちの研究に生かしてほしい」と話した。【小林昭雄】

食の安全意識と国産志向の高まり

「緑提灯」1000店突破

強い国産志向

国産食材、地場産品を応援する飲食店に掲げられる「緑提灯（ちょうちん）」の店が全国で1000店を超えたことが21日、分かった。1月末の中国製冷凍ギョーザ中毒事件を契機に、消費者の食の安全意識と国産志向が高まり、さらに多くのマスメディアで取り上げられ、広く関心を呼んだことが大きい。

2005年4月、北海道小樽市で第1号店が誕生してから3年余り。2月上旬でまだ約100店にすぎなかったが、この3カ月で爆発的に増えた。緑提灯運動に賛同する応援飲食店は1300人以上。

緑提灯は1000店に達するまで無料で提供していたが、突破を契機に、「NPO法人・生活者のための食の安心協議会」が緑提灯の事務業務を担い、寄付製作の実費相当として1枚1万円の寄付を受ける。

運動発案者・中央農業総合研究センター所長の丸山清明さん（61）は「おじさんたちの遊びとしてゆっくり進めていくつもりだった。店さんの地道な・国産食材への関心が高く、緑提灯は農家への後ろ盾となり、意義は大きい。部ごえをきて感動している」と話す。

■2008年5月22日
農業新聞掲載

茨城県農業総合センター
筑西地域水田農業フォーラム 参加

独立行政法人
農業・食品産業技術研究機構　作物研究所
国産大豆フォーラム 参加

肥料投入量へのこだわり

通常に比べて30%ほど肥料の投入を控えています。肥料が少ない分、通常より収穫量は5～8%ほど減少します。しかし、お米に残る窒素成分が抑えられることで、ご飯に一層の“粘りと甘み”が生まれます。

収穫時期へのこだわり

通常に比べて1週間～10日早く稲の収穫を行います。当然、未熟米が多くなるので、製品になる量は減ります。収穫量は5～7%ほど減少してしまいますが、お米が若いのでご飯に抜群の“ツヤ”が生まれます。

山善農園の農産物のご紹介

高設栽培いちご

たっぷりの甘味と爽やかな酸味が魅力で、レモンの約2倍のビタミンCを含みます。

冬場のハウスキャベツ

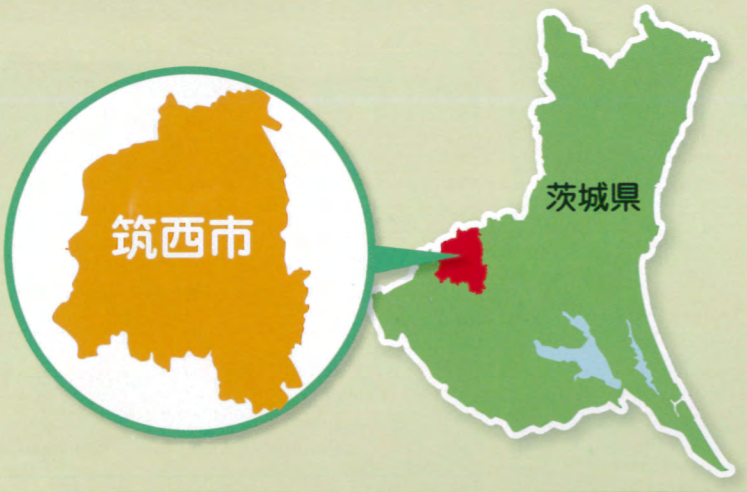
やわらかく甘みがあります。

そば

時期:11月上旬
夏には白い花が咲く、筑西のそばは、その生産量だけでなく、香り・風味・甘味も良いのが特徴です。

万葉集にも歌われている筑波山の西側に位置します「筑西市」は、平成17年3月28日に、旧下館市、旧真壁郡の関城町・明野町及び協和町の1市3町が合併して誕生した、風光明媚な、そして豊かな自然環境に抱かれた人口11万人余の茨城県西部の中核都市です。

市域には、利根川の支川である鬼怒川・小貝川などの河川が南北に貫流し、平坦で肥沃な田園地帯を形成しており、農業、工業、商業がバランスよく発展した、筑西地方随一の産業都市です。特に、農業の産出額は全国有数となっており、コシヒカリ（水稲）をはじめ、梨、紅こだま西瓜、きゅうり、イチゴ、トマトなどは、全国の消費者の皆様から高い評価を頂いています。また本市は、陶芸家の板谷波山、洋画家の森田茂の2人の文化勲章受章者を輩出した文化の薫り高い土地柄で、安倍晴明（陰陽師）や小栗判官伝説のふるさとでもあります。日本一の大神輿が繰り出す「祇園祭り」をはじめ、大相撲の力士との交流でお馴染みの「どすこいペア」、辺り一面が花・花・花の「ひまわりフェスティバル」・小栗伝説を再現する「小栗判官祭り」と、イベントは年間を通じて多種多様です。



筑西のみどころ

しもだて美術館

あけの元気館

板谷波山記念館

宮山ふるさとふれあい公園

イベント

明野薪能

下館祇園祭り

鮭の遡上

小栗判官祭り

「おいしい！」の一言のために

杉山さんちは、茨城県の西部、筑西市にある農家です。総耕作面積（借地含）45ha、水稲30ha、小麦36ha、大麦3ha、大豆40haを基本的な作付け体系とし、水稲ー麦ー大豆の2年3作輪作体系による作付けで、耕作面積の約90%は土地基盤整備事業が完了した水田地帯であります。7名で農業経営を行っています。

有限会社 山善農園

代表取締役 杉山 善司

茨城県筑西市野殿1242-1
TEL・FAX 0296-24-7693